

あなたの毎日は、 自動認識に守られています。

カードも使わずにゲートが開閉して、関係者だけが入館できる。

生産地・生産者がわかる、安全でおいしい食材が手に入る。

ネットで注文したものが、すぐに手もとに届く。

そんな安全・安心・快適な社会を支えているのが、顔認識、RFID、

バーコードを始めとする様々な認証技術と自動認識システムです。

その恩恵は、今日のあなたにも。



JAISA

協会のご案内

日本自動認識システム協会は、人々の生活の向上のため、新たな技術とシステムの開発を推進しています。

JAISA

一般社団法人日本自動認識システム協会 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1丁目9番5号 FKビル7F <https://www.jaisa.or.jp/>

2025.04_B

一般社団法人**日本自動認識システム協会**
Japan Automatic Identification Systems Association



会長ご挨拶



代表理事会長
相良 隆義

日本自動認識システム協会は、1999年に社団法人として設立、2011年4月に一般社団法人に移行して再出発いたしました。当協会はこれまで、自動認識システムに関わる調査研究と標準化を推進し、その普及啓発に努め、我が国の経済発展と国民生活の向上に貢献できるよう活動しております。

現在の自動認識システムは、産業界に留まることなく私たちの日常生活にも不可欠なものとなっており、昨今の感染症拡大防止対策期間にあっても非接触、無人化、自動化のソリューションが次々と開発されるなど、新たな生活様式の基盤となる技術として、今後も発展することを確認しております。さらに、当協会はDX（デジタルトランスフォーメーション）に向かうビジネス構造の大きな変革に対応するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）および未来のグリーン社会を実現するために、国際交流を促進し関係団体と協調しつつ取り組んでまいります。

当協会では、自動認識技術者の育成・向上のための資格認定講習・試験、自動認識の基礎知識セミナーなどを実施するほか、業界発展と活性化のための展示会事業として毎年東京、大阪で自動認識総合展を開催しており、広く普及啓発をおこない市場の活性化をはかってまいります。

当協会の活動に対して、関係各位のご支援と積極的なご参加をお願い申し上げます。

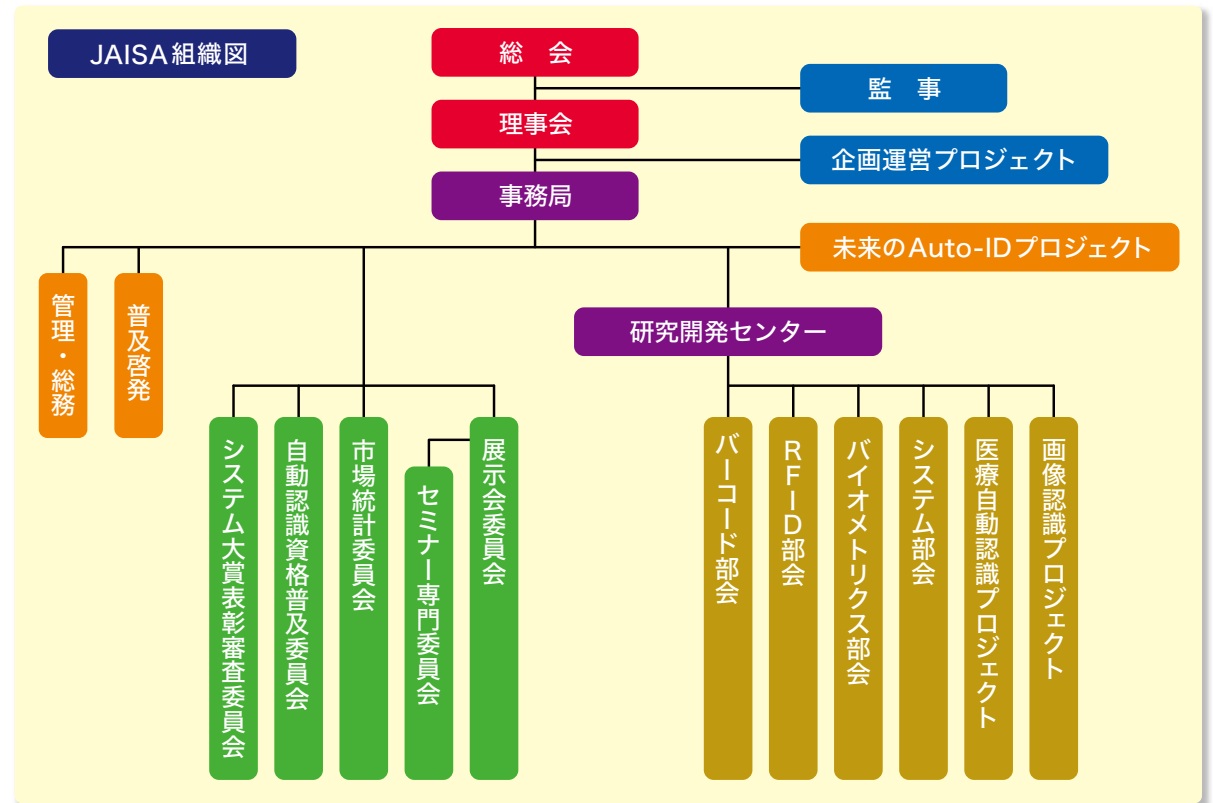
協會沿革

1986年 8月	任意団体エーアイエム ジャパン（国際自動認識工業会）設立 当初加盟14社
1987年 11月	第1回SCAN-TECH JAPAN展示会を科学技術館にて開催
1999年 2月	任意団体エーアイエムジャパンを発展的に解散し、社団法人日本自動認識システム協会設立 当初加盟108社
1999年 9月	SCAN-TECH JAPAN展示会を自動認識総合展に変更し、 第1回目を東京ビッグサイトにて開催。同時に自動認識システム大賞を創設
2003年 2月	バーコード&RFIDシステムフェア大阪をマイドームおおさかにて開催
2003年 4月	協会内に研究開発センターを設置
2004年 1月	英文名称AIM JAPANからJAISA (Japan Automatic Identification Systems Association) に変更
2004年 2月	第1回自動認識総合展大阪を開催
2004年10月	第1回自動認識基本技術者資格認定試験の実施
2006年10月	第1回RFID専門技術者資格認定試験を実施
2008年 8月	自動認識技術の最新情報誌JAISA NOW（設立10周年記念版）を発行
2011年 4月	一般社団法人に移行 一般社団法人日本自動認識システム協会となる
2016年 5月	創立30周年記念祝賀会を開催
2019年 4月	自動認識市場拡大を目的に、新プロジェクト<未来のAUTO-ID>が発足 同プロジェクト主導で、9月の第21回自動認識展において<自動認識で変わる未来>を企画展示
2020年12月	第18回自動認識総合展（大阪）を東京五輪・パラリンピックの開催に伴い日程を変更して開催、 未来のAUTO-IDプロジェクトは<SDGsを支える自動認識>を企画展示
2021年 2月	第22回自動認識総合展（東京）をコロナ禍の影響で開催を中止
2021年10月	第23回自動認識総合展（東京）を開催

2023-24年度のおもな活動

- 自動認識総合展（東京・大阪・名古屋）を開催、自動認識セミナーを併設
- 自動認識システム大賞を開催、受賞者表彰を実施
- 自動認識技術者資格認定講習・試験を実施、資格者を認定・登録
- 自動認識の基礎知識セミナー及び講師派遣による同セミナーを実施
- 自動認識に関連したビジネスに即役立つ各種セミナーやワークショップを開催
- 未来のAUTO-IDプロジェクトで、幼年～小学生向け自動認識体験学習を実施、大学生・新社会人向け自動認識総合展見学会ほか、自動認識ユーザーの現場見学会を実施

協会組織図



協会役員

(役付役員を除く50音順)

一般社団法人日本自動認識システム協会 理事・監事		
役職	氏名(敬称略)	会社名
代表理事会長	相良 隆義	株式会社デンソーウェーブ 代表取締役社長
代表理事副会長	鈴木 圭	NECプラットフォームズ株式会社 執行役員
副会長	森田 昌洋	オカベマーケティングシステム株式会社 代表取締役社長
専務理事(常勤)	古村 浩志	一般社団法人日本自動認識システム協会
常務理事(常勤)	熊本 正宏	一般社団法人日本自動認識システム協会
理事	阿久津 和弘	富士通フロンテック株式会社 フロントソリューション事業本部 CPS事業部 事業部長
理事	荒木 勉	上智大学 名誉教授
理事	池上 隆介	株式会社日立製作所 クラウドサービスプラットフォームビジネスユニット マネージド&プラットフォームサービス事業部 セキュリティサービス本部 本部長
理事	市野 将嗣	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授
理事	岡田 幸紀	アイメックス株式会社 代表取締役
理事	小平 尚	株式会社マーストークンソリューション 代表取締役社長
理事	斎藤 英雄	慶應義塾大学 理工学部 情報工学科 教授
理事	笹原 美德	サトーホールディングス株式会社 上席執行役員 兼 株式会社サトー 代表取締役社長
理事	佐藤 誠	東芝テック株式会社 リテール・ソリューション事業本部 プロダクト・プランニング&クリエーションセンター SCMソリューション商品部 担当部長
理事	柴谷 浩毅	TOPPANデジタル株式会社 取締役副社長執行役員
理事	高嶋 照仁	ゼネラル株式会社 代表取締役社長
理事	藤沢 修	TOPPANデジタル株式会社 フェロー
理事	宝代 彰	株式会社フェニックス 代表取締役社長
理事	山本 健太郎	株式会社リコー リコーインダストリアルBU スマートパッケージ事業部 事業部長
監事	小森谷 豊	税理士法人レインボー 代表社員 公認会計士 税理士
監事	平本 純也	アイニックス株式会社 代表取締役

自動認識とは

『人、動(植)物、物、情報などに付加されたデータキャリアの情報または固有の情報(人の特徴、物の特徴など)を、人間を介さずハード、ソフトを含む機器により自動的に取得する技術』

自動認識の代表的な技術

バーコード(一次元シンボル・二次元シンボル)



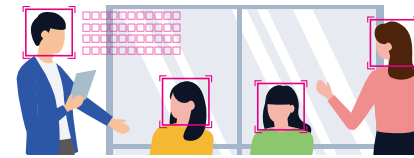
一次元シンボルは、太さの異なるバーとスペースの組合せで数字や文字を表現し、バーコードスキャナ(光学認識装置)で読み取ります。一方向だけに情報を持つ一次元シンボルに比べ、二次元シンボルは、縦・横二方向に情報を持つため、より多くの情報を記録できます。

RFID



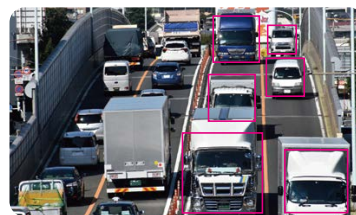
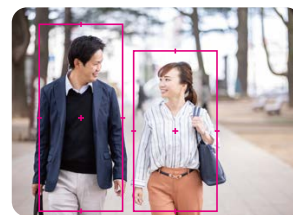
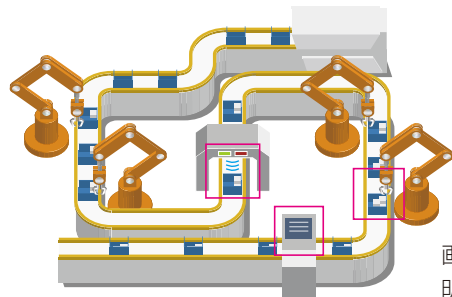
RFID(Radio Frequency IDentification)は、電波でICチップに入力された情報を読み取る技術で、データの書き換えができ、複数の物品を同時に読み取ることができます。

生体認証



生体認証は、バイオメトリクス(biometrics)とも呼ばれ、人間の身体的特徴(顔、指紋、静脈、虹彩、DNA、ほか)や行動的特徴(筆跡、声紋、歩容、ほか)を用いて本人を確認し、個人認証を行う方法です。

画像認識



画像認識は、画像や動画からオブジェクト(文字/顔など)や、対象物の特徴(形状、寸法、数、明暗、色など)を抽出/分析/識別する手法で、ディープラーニングにより精度が向上しています。

設立の目的

『自動認識機器及びそれに関連するソフトウェアに関する調査研究、規格の立案及び標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、製造・流通・物流等のシステムの効率化及び高度化の推進を図り、もって我が国経済の発展及び国民生活の向上に寄与すること。』

事業概要

1 普及啓発および広報

事務局の活動

- 自動認識総合展の開催(東京・大阪、セミナー併設)
- 自動認識システム大賞
- 自動認識技術者認定講習・試験
- 自動認識の基礎知識セミナー
- 会報誌の発行、メルマガの配信



2 調査・研究

- 自動認識市場動向調査
- バーコード関連の調査研究
- RFID電波関連調査研究、活用ガイドラインなどの制作
- 生体認証関連の調査研究
- 画像認識に関する調査研究
- 医療分野の自動認識システム活用に関する調査研究

3 規格の立案および標準化の推進(受託事業など)

- バーコードプリンタおよびバーコードリーダの性能評価仕様(JIS X 0527)に関する国際標準化
- 汎用RTI(リターンブル輸送容器)用大容量電子タグ(RFID)に関する国際標準化
- RFIDタグ読取評価基準の検討
- 物流効率化に向けたRFIDの母国語利用などに関する国際標準化
- 容易にセキュリティ性を確認できる生体認証の制度評価方法の国際標準化
- キャッシュレス決済用モバイル端末の表示品質に関する標準化調査

4 関連機関との交流と協力

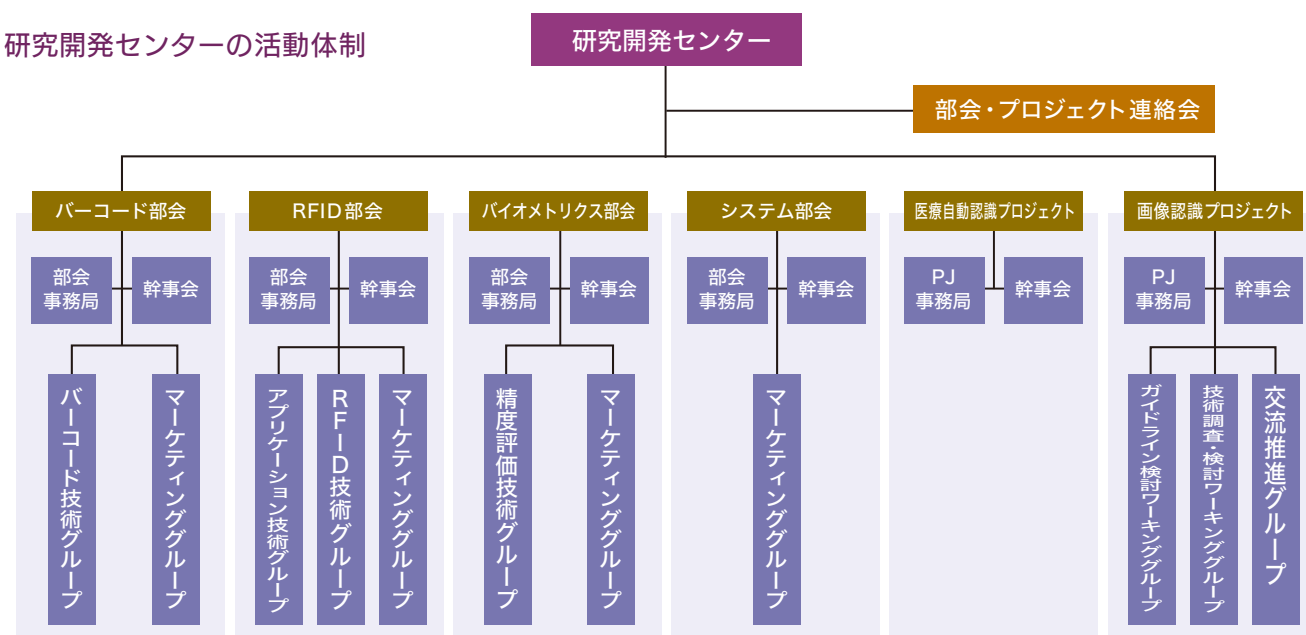
- 経済産業省をはじめ、関係省庁や関係諸団体との積極的な交流をはかり、会員企業への情報提供につとめる
- 既存領域に留まらず物流・流通など関連業界における共通課題の抽出につとめ、実証事業などの新テーマ発掘を行う
- 産業団体、標準化団体などとの交流につとめ、関係諸団体との自動認識に関する標準規格の策定・改訂などを積極的に実施し、産業界における業務効率化・高度化の実現を目指す

研究開発センター

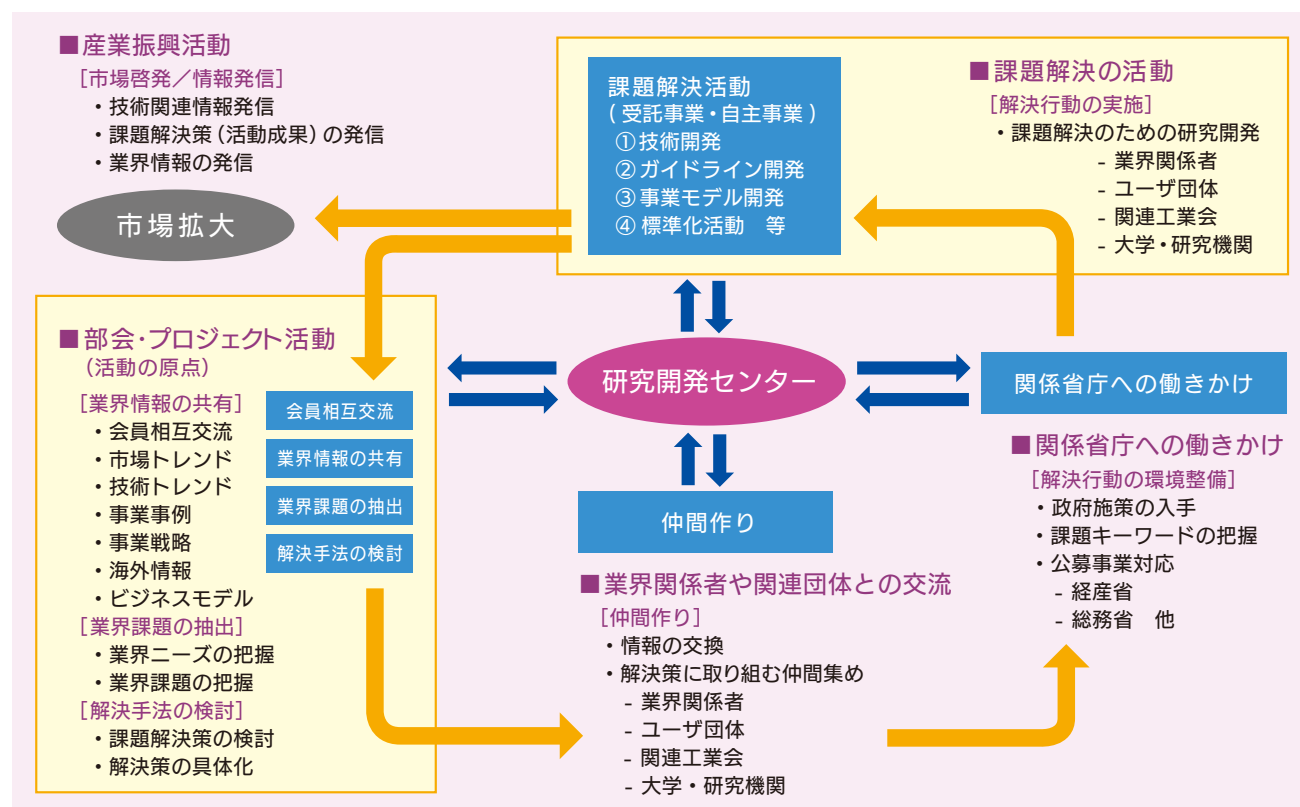
JAISAの研究開発センターは、自動認識業界の産業振興に貢献することを基本活動方針として、バーコード、RFID、バイオメトリクス、システム部会および、医療自動認識、画像認証のプロジェクトを組織し、会員企業とともに活動しています。部会・プロジェクトでは、会員相互のコミュニケーションを活発に行い、市場の共通課題を抽出し、技術グループや作業グループの活動とともに、関係省庁や関係団体との協力・連携をもって課題解決に向けた活動を行なっています。



研究開発センターの活動体制



自動認識市場拡大に向けた活動サイクル



部会活動

バーコード部会

バーコードはさまざまな分野で使用され、企業における業務の効率化のみならず私たちの実生活の利便性を向上させる手段となっています。バーコード部会は、社会のインフラとして存在するバーコードの更なる発展を目指し活動しています。

- 1.バーコード市場での健全かつ公正な競争原理を醸成し、それによる顧客満足度の向上を図る。
- 2.自動認識市場におけるバーコード技術を基点にし、横断的に諸情報の交換及び共有化を図る。
- 3.自動認識技術を更に普及させることによって、省資源・地球環境にやさしい社会の現実を目指す。

RFID部会

RFID部会の活動目的は、以下の活動を通じてRFIDの普及・啓蒙を図ることです。

- 1.標準化、普及活動に積極的に参画していく。
・JEITA(SC31)を通じ、RFID関連の標準化に寄与する。
・RFID普及の阻害要因を解決する活動に、積極的に関与する。
- 2.部会活動内容及び部会活動成果の情報発信を行う。
・最新の情報を発信して、利用者の方々に便宜を図るとともに、利用者の方々のニーズを部会内のベンダーに伝えることで、市場の活性化を図っていく。
- 3.会員相互の親睦を深め、コミュニケーションを円滑に行い、部会活動を活性化させる。
・RFIDのシステムは多岐にわたる構成要素が必要とされ、個別企業による対応は難しい状況です。そこで、部会内部においてもコミュニケーションを円滑に行います。

システム部会

システム部会では、自動認識技術を活用したシステム事例や新しい自動認識技術の理解を深め、そのシステムへの応用を図り、自動認識技術の発展に役立てることを目的として活動しています。

- 1.国内事例に限らず海外も含めた自動認識の先進的な活用事例をテーマとして年間を通じたセミナーを企画・立案し、情報提供を行う。
- 2.先進的システムを導入されているユーザーのシステム見学会を企画・開催し、自動認識ユーザーと意見交換を行うことで、システムとオペレーションの理解を深める。
- 3.最新の自動認識技術活用動向とユーザーニーズの把握に努める。

バイオメトリクス部会

バイオメトリクス(生体認証)技術は自動認識の基本技術の一つ。“究極の本人認証技術”であり、パスポートや国民ID(免許証、マイナンバーカード等)で広く普及しています。入退室管理やインターネットでの非対面の本人確認手段で注目を集めている技術です。

本部会ではバイオメトリクス市場の更なる成長、バイオメトリクス技術の普及促進のために活動をしています。

- 1.部会活動を会員への価値提供の源泉とらえ、会員の事業に役立つ価値の提供に取り組む。
- 2.国内外の関連組織と連携し、産業界に共通し、共同で解決すべき技術、社会制度、市場環境、サービス提供側あるいは活用する利用者側に存在する課題解決に取り組む。
- 3.国内および海外の普及には国際標準は必須と捉え、国際標準化に取り組む。

プロジェクト活動

医療自動認識プロジェクト

医療自動認識プロジェクトは、医療用医薬品や医療機器等へのバーコード、RFIDの利活用促進や、今後市場拡大が想定される福祉・介護・在宅医療等の地域包括ケアシステムへの自動認識技術の利活用促進など、医療関係への自動認識技術の更なる利活用を目指して活動しています。

部会活動を超えて広く横断的な組織活動とすることにより、本プロジェクト参加企業のみならず、全ての会員企業への情報発信、情報共有等、より広く積極的な対応を実施しています。

画像認識プロジェクト

画像認識プロジェクトは、これまでのバーコード(1次元/2次元)、RFIDなどの自動認識技術では実現できなかった処理や管理、制御に画像認識技術を加えることで、より確実なものにするための取り組みを行なっています。また、会員企業の間画像認識に対する知識・知見を浸透させる活動を行ないます。

プロジェクトの活動方針は、ニューノーマル時代におけるビジネス課題、社会的課題の発掘とDXの支援に、画像認識技術が利活用されるよう取り組むことです。

入会のご案内

会員様にはさまざまな特典をご用意しております。
当協会の活動趣旨にご賛同いただき、是非、入会をご検討ください。

規格の立案、標準化活動

技術の発展や市場の拡大に必要な規格化と標準化。特に、世界市場に対応するためには、国際標準は不可欠となります。

当協会の研究開発センターでは、企業単独では困難な規格化と標準化に向けた活動を会員企業とともに推進しています。

ビジネスチャンスを拡大

当協会には、バーコード、RFID、生体認証（バイオメトリクス）、システムの4部会に加え、医療自動認識、画像認識の2プロジェクトが活動しています。これらの部会やプロジェクトに参加することで、最新技術や関連する業界の情報を入手できるだけでなく、会員企業間の交流機会も多く、ビジネスチャンスが拡大します。

*入会の際には、いずれかひとつ以上の部会にご参加いただきます。

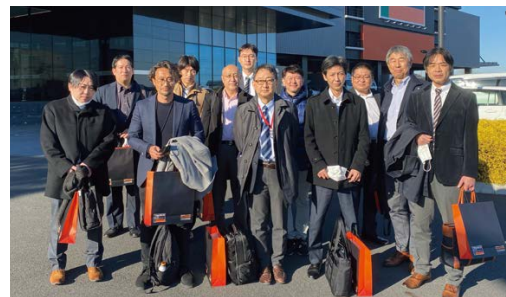
見学会、導入事例発表

当協会の部会・プロジェクトの活動の一環として、毎年自動認識ユーザの見学会を実施しています。

また、定期的に会員企業の新製品や導入事例などを紹介する場を提供しています。

<主な標準化実績>

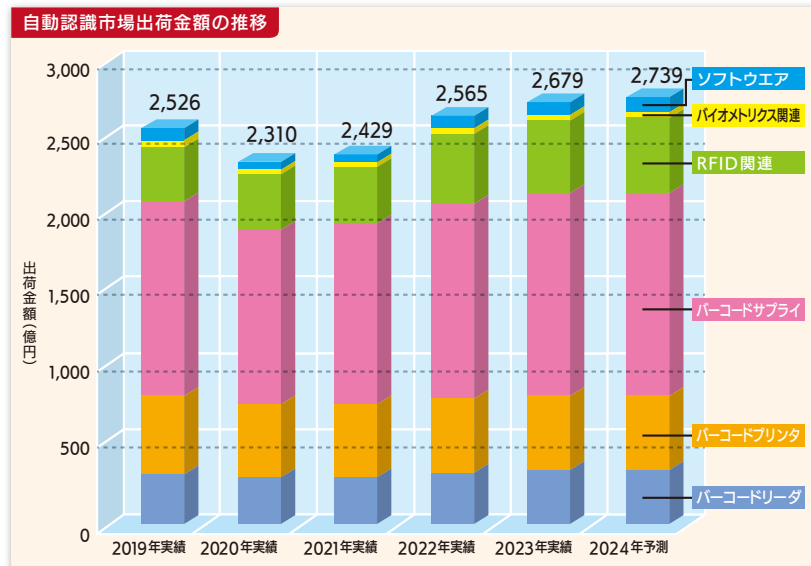
1997年 10月	2次元シンボル「QRコード」がAIM International (国際自動認識工業会) 規格として制定 (ISS-QR Code)
2005年 12月	バーコード検証器の適合仕様 (1D) のJIS化 (JIS X 0521-1)
2010年 3月	二次元シンボルPDF-417のJIS化 (JIS X 0508)
2013年 7月	リライタブルハイブリッドメディアのJIS化 (JIS X 0525)
2015年 3月	二次元シンボル データマトリックスのJIS化 (JIS X 0512)
2017年 1月	RFIDのサプライチェーンへの適用5規格のJIS化 (JIS Z 0663~0667)
2017年 3月	バーコード印刷品質評価仕様 (2D) のJIS化 (JIS X 0526)
2018年 3月	プリンタ及びリーダの性能評価仕様のJIS化 (JIS X 0527)
2022年 5月	上記規格が国際標準ISO/IEC 24458に



市場調査報告書

バーコード、RFID、生体認証（バイオメトリクス）の出荷実績と市場予測について調査を実施し、取り纏めた市場調査報告書を毎年作成して会員に無料で配布します。

製品ごとの詳細なデータは自動認識業界を知るうえで貴重な情報源です。



自動認識技術者資格認定講習・試験

自動認識技術者の育成を目的として、2004年から自動認識技術者資格認定講習・試験を実施しています。合格者には登録証（カード）と証書を発行します。講習と試験をセットで受ける場合、会員企業は割引価格となります。若手社員や新任の研修、技術職の専門知識の習得に活用いただいています。

自動認識総合展の開催

自動認識業界の発展のために、自動認識総合展を東京・大阪で毎年開催しており、日本で唯一の自動認識機器とソリューションの専門展示会として国内外から広く注目されています。会員企業は出展料が割引されます。



セミナーの聴講

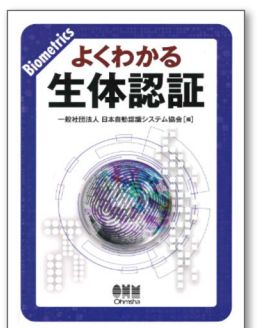
関係省庁の法改正に伴う政策動向や、自動認識システムの最新事例、技術紹介など、自動認識の普及啓発を目的としたセミナーを毎年多数実施しています。また、人材育成のための自動認識の基礎知識セミナーも開催しています。有料セミナーの場合、会員企業は聴講料が割引されます。



自動認識関連図書、技術資料

当協会が発行するバーコード、RFID、生体認証（バイオメトリクス）に関する書籍を割引価格で購入できます。基礎知識から技術解説、活用事例、規格や標準化など、市場動向を詳しく解説しています。

*「よくわかるRFID」は改訂3版が発売されています。



書籍販売 <https://www.jaisa.or.jp/bookshop.php>



登録証見本

会 員 割 引

展示会出展料

小間タイプ	出展料 (1小間単位)	
Aタイプ (3m×3m×2.7m)	会員企業 (正会員・V会員)	非会員企業 (賛助会員・ユーザ会員含)
1～2小間	390,000円 (税込価格429,000円)	440,000円 (税込価格484,000円)
3～7小間	350,000円 (税込価格385,000円)	400,000円 (税込価格440,000円)
8小間以上も割引がございます。		
Bタイプ (2m×2m×2.7m)	会員企業 (正会員・V会員)	非会員企業 (賛助会員・ユーザ会員含)
1小間	210,000円 (税込価格231,000円)	240,000円 (税込価格264,000円)

※自動認識総合展（東京）の出展料 ※Bタイプは、申込み制限あり（最大2小間まで）

資格認定試験 受講受験料

受験回数	自動認識基本技術者認定講習・試験			
	会員企業	非会員企業	学生割引料金	受験料 (試験のみ)
1回目受験料	30,000円 (税込価格33,000円)	40,000円 (税込価格44,000円)	15,000円 (税込価格16,500円) 毎回	10,000円 (税込価格11,000円) 毎回
1回目受験料 (テキスト無)	24,000円 (税込価格26,400円)	32,000円 (税込価格35,200円)		
2回目受験料 (テキスト無)	15,000円 (税込価格16,500円)	15,000円 (税込価格16,500円)		

※1回目より3年以内の受験者は2回目料金を適用。3回目以降受験は1回目と同料金

	自動認識専門技術者認定講習・試験		
	会員企業	非会員企業	共通 (試験のみ)
毎回	40,000円 (税込価格44,000円)	50,000円 (税込価格55,000円)	20,000円 (税込価格22,000円)

セミナー聴講料

セミナー概要	人数	聴講料	
		会員企業	非会員企業
自動認識の基礎知識セミナー (集合形式、オンライン形式)	1名 以上	10,000円 (税込価格11,000円)	20,000円 (税込価格22,000円)
自動認識技術 (バーコード、RFID、バイオメトリクス) の基礎的な知識、活用方法、応用事例を解説します。			
自動認識セミナー (講師派遣、オンライン形式)	20名 未満	30,000円 (税込価格33,000円) 1講座	60,000円 (税込価格66,000円) 1講座
ご要望により、ご希望の日時・場所で、 バーコード、RFID、バイオメトリクスの セミナーを実施します。 2講座以上でお申し込みください。	20名 以上	40,000円 (税込価格44,000円) 1講座	80,000円 (税込価格88,000円) 1講座
	50名 以上	60,000円 (税込価格66,000円) 1講座	120,000円 (税込価格132,000円) 1講座

会 員 種 別

正会員

正会員は、自動認識システムなどに関連する機器、ソフトウェアおよび応用システムなどの事業を営む企業および当該事業に関連する団体。
総会での議決権を有す。

賛助会員

正会員に該当しないもので、この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする以下に例示の企業、団体および企業に所属しない個人。
(1) ハードウェア、ソフトウェア、システムおよびサービスなどを提供する企業および団体
(2) 出版、展示会、セミナー、イベントおよび教育などに関連する企業および団体
(3) コンサルタント、アドバイザー、教師、一般社会人および学生などの個人

ユーザ会員

自動認識システムなどの導入に際し、再販売を目的とせず、自動認識を利活用するために情報収集、共同研究、標準化などを行おうとする中で、この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする企業、団体および企業に所属しない個人。

V会員

正会員要件の企業の中で、入会時設立5年未満の企業が対象。
但し、会員資格は最長2年間とし、以降は原則として正会員に入会。

入 会 金 ・ 年 会 費

会員種別	入会金	年会費
正会員	100,000 円	国内自動認識関連の売上金額 (国内・輸出) により決定されます。
		国内自動認識関連売上金額
		1 億円未満
		240,000 円
		5 億円未満
		300,000 円
		10 億円未満
		450,000 円
賛助会員	(法人) 100,000 円 (個人) 10,000 円	120,000 円 (一口) ※一口以上お願いします。
		30,000 円
ユーザ会員	(法人) 100,000 円 (個人) 10,000 円	120,000 円
		30,000 円
V会員	0 円	120,000 円 ※ 正会員移行時には、入会金 5 万円を申し受けます。

入 会 手 続

入会申込書を事務局へお送りください。

申込書 URL ▶ <https://www.jaisa.or.jp/join.php>

※お申し込み後、理事会の承認を得ての正式なご入会となります。

入会お問い合わせ先 ▶ TEL.03-5825-6651 / FAX.03-5825-6653

会報JAISA

会報JAISAは、当協会のイベント（総会、展示会、賀詞交歓会など）を中心に年4回発行し、Webサイトに掲載しています。



JAISA NOW

JAISA NOWは、自動認識市場、技術動向、導入事例の紹介、研究開発センターの部会・プロジェクトの活動などを掲載して年1回発行し、展示会や当協会のイベントなどで無料配布しています。



協会アクセス



最寄駅 JR山手・京浜東北・中央線 神田駅（南口） 徒歩10分
JR総武快速線 馬喰町駅（2番出口） 徒歩6分
東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅（2番出口） 徒歩4分
都営新宿線 岩本町駅（A4出口） 徒歩6分
都営新宿線 馬喰横山駅（A2出口） 徒歩8分

JAISA 一般社団法人日本自動認識システム協会
東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F
TEL: 03-5825-6651 FAX: 03-5825-6653
URL: <https://www.jaisa.or.jp/>

会員リスト

(50音順: 2025年4月現在)

No.	社名	バーコード 部会	RFID 部会	バイオメトリクス 部会	システム 部会	医療自動認識 Proj	画像認識 Proj
1	(株) アートファイネックス		●				
2	(株) RFIDアライアンス		●		●		●
3	RFルーカス (株)		●				
4	IDEC AUTO-ID SOLUTIONS (株)	●	●		●	●	●
5	アイニックス (株)	●	●	●	●	●	●
6	アイメックス (株)	●	●			●	
7	アヴネット (株)	●	●		●		
8	(株) 朝日ラバー		●				
9	アビームコンサルティング (株)		●				
10	アライゾンジャパン (株)		●				
11	イーデーエム (株)	●					●
12	(株) イー・ビー・エル				●		
13	(株) eビジネスソリューション		●		●		
14	(株) イシダ	●	●				
15	(株) イメージャー	●	●			●	●
16	ウイン・パートナーズ (株)		●			●	
17	(株) ヴェスト		●				
18	(株) エイジス		●				
19	エイブリー・デニソン・ジャパン (株)	●	●		●	●	●
20	(株) エイボス		●				
21	エース工業 (株)		●			●	
22	エクサコンサルティング		●		●		
23	SAGジャパン (株)		●			●	
24	SGシステム (株)		●		●	●	
25	NECプラットフォームズ (株)	●	●				
26	エル・エス・アイ ジャパン (株)		●				
27	王子タック (株)	●	●		●		●
28	大阪シーリング印刷 (株)	●	●		●	●	
29	(株) オートニクス						
30	(株) オープンストリーム		●				
31	オカベマーケティングシステム (株)	●	●		●	●	
32	オムロン (株)	●	●				
33	キハラ (株)		●				
34	キャノンファインテックニスカ (株)	●	●	●	●	●	●
35	グローリー (株)			●	●		
36	(株) ケイエム				●		●
37	高圧ガス工業 (株)		●				●
38	(株) コネクト	●	●				
39	コバオリ (株)		●				
40	小林クリエイト (株)	●	●		●	●	
41	(株) サイレンスネット	●	●		●		
42	(株) サトー	●	●		●	●	●
43	山京インテック (株)	●	●		●	●	●

会 員 リ ス ト

(50音順：2025年5月現在)

No.	社名	バーコード 部会	RFID 部会	バイオメトリクス 部会	システム 部会	医療自動認識 Proj	画像認識 Proj
44	(株) シー・エヌ・ティ						
45	(株) シービジョン				●		
46	(株) シーデックス		●				●
47	シーレックス (株)	●	●		●		
48	ジック (株)		●		●		
49	(株) シフト	●	●		●	●	●
50	(株) 昭芝製作所		●				
51	シリウスビジョン (株)					●	●
52	(株) 新盛インダストリーズ	●	●		●		
53	(株) 新日本電波吸収体		●				
54	セイコーエプソン (株)		●				
55	積水樹脂 (株)		●				
56	セコム (株)			●			●
57	ゼネラル (株)	●	●		●		
58	ゼブラ・テクノロジーズ・ジャパン (株)	●	●				
59	(株) ソフェル		●				
60	ダイオーエンジニアリング (株)	●	●		●	●	
61	大日本印刷 (株)		●				●
62	(株) ダイフク						●
63	(株) 大和コンピューター		●				●
64	高千穂交易 (株)		●				
65	タカヤ (株)		●				
66	チェックポイントジャパン (株)		●				
67	(株) デジ・テック	●	●	●			
68	帝人フロンティア (株)		●		●	●	●
69	テュフズードジャパン (株)	●	●		●		
70	デュプロ (株)	●					
71	(株) 寺岡精工	●	●				
72	(株) テララコード研究所	●	●			●	
73	(株) デンソーウェーブ	●	●	●		●	●
74	(株) デンソーエスアイ		●		●		●
75	テンタック (株)	●	●				
76	東機通商 (株)		●				●
77	東京吉岡 (株)		●				
78	東芝テック (株)	●	●	●	●	●	
79	東洋製罐 (株)		●				
80	トーヨーカネツ (株)		●		●		●
81	(株) トッパンインフォメディア	●	●		●		●
82	TOPPANエッジ (株)		●				
83	TOPPANデジタル (株)		●	●			●
84	ナクシス (株)	●	●				●
85	(株) ナテック		●		●		
86	日栄インテック (株)	●	●		●		

会 員 リ ス ト

(50音順：2025年5月現在)

No.	社名	バーコード 部会	RFID 部会	バイオメトリクス 部会	システム 部会	医療自動認識 Proj	画像認識 Proj
87	日精 (株)		●	●			
88	ニッタ (株)		●				
89	日本NCRコマース (株)						●
90	日本電気 (株)		●	●		●	
91	日本工業出版 (株)						
92	日本ハネウエル (株)	●	●				
93	日本パレットレンタル (株)		●				
94	日本ミクロン (株)		●				
95	ニューランドAIDCジャパン (株)	●	●				●
96	野崎印刷紙業 (株)	●	●		●		
97	(株) ハイエレコン		●		●		
98	伯東 (株)		●		●		●
99	(株) パトライト	●	●	●		●	
100	(株) ハヤト・インフォメーション		●				
101	(株) 日立ケーイーシステムズ	●	●		●		●
102	(株) 日立産業制御ソリューションズ		●	●	●		
103	(株) 日立製作所		●	●	●		
104	日立チャンネルソリューションズ (株)			●			
105	ビブリテオカ・ジャパン (株)		●				
106	(株) フェニックス	●	●			●	
107	フジコピアン (株)	●					
108	富士通 (株)	●		●			
109	富士通フロンテック (株)		●				
110	富士フイルムイメージングシステムズ (株)						●
111	ブラザー販売 (株)	●	●				
112	(株) ブレイン	●	●				
113	(株) マーストーケンソリューション	●	●			●	●
114	マスプロ電工 (株)		●				
115	三菱電機ビルソリューションズ (株)		●	●			
116	(株) 宮川製作所		●			●	●
117	(株) ムクイル				●	●	●
118	(株) 村田製作所		●				
119	(株) 弥栄		●				
120	ユタカ電気 (株)	●	●	●	●	●	
121	(株) Uni Tag		●			●	
122	吉川工業アールエフセミコン (株)		●				
123	RICHIRFID JAPAN (株)		●				
124	(株) リコー	●	●		●	●	
125	リコージャパン (株)	●	●				●
126	理想科学工業 (株)		●				●
127	ワム・システム・デザイン (株)		●	●			